

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス コラソン			
○保護者評価実施期間	2025年 1月 25日		～	2025年 3月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	3
○従業者評価実施期間	2025年 1月 25日		～	2025年 3月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	11
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 7日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもや保護者からの相談や申し入れに対応することが出来ている	活動中に子どもの意見を聞き出し、無理のないペースで集団活動に取り組めるよう配慮している。また、保護者からの要望を事業所内で共有し、会議で具体的な対応策を考えた上で実践している。	事業所内における相談対応だけではなく、家庭内での困りごとや悩みにも対応できるよう、個別での面談を設けて聞き取りを行う。また、聞き取った内容に対して事業所で取り組めることを保護者や児童と話し合うように努める。
2	子ども達が清潔な空間で心地よく過ごすことができ、伸び伸びと活動できる環境を提供できている	毎日、事業所の清掃を行い、転倒・怪我等の恐れがある箇所はチェックして、予防策を講じている。また、一日のスケジュールを視覚支援で示す等、見通しを持って過ごしてもらえるような工夫を心がけている。	環境の調整だけではなく、児童にとって無理のない活動目標に設定したり、活動に取り組む時間を調整する等、支援においても工夫を心掛けていく。
3	固定化されないように工夫されたプログラムや多様な人と関わる機会を提供できている	外部講師を招いてリトミック（音楽療育）やアイシングクッキー作りといったプログラムを行ったり、地域の農家さんと連携して田植え等の農業体験を行うなど、多様な人と関わるができるよう工夫している。	多様な人と関わることは出来ているが、関わる相手が大人である場合が多い。利用者と年齢に近い障がいのない子どもとも関わる機会を持つことができるよう、交流できる地域イベントに参加するといった取り組みを行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別支援計画への納得感が低い	児童の課題やニーズを客観的に分析し、支援に必要な項目を5領域等に沿って記載しているが、具体的な支援内容や方針を伝えきれていない部分がある。	個別支援計画を共有する際、支援内容をより具体的に説明するように心掛ける。また、個別支援計画原案会議にて、引き続き支援計画を職員間で共有し、保護者の要望にも沿った計画内容であるかをチェックしていく。
2	父母の会等、保護者同士の連携に対する支援が不足している	利用している方に向けて保護者会を設けているが、頻度は多くなく、面談を実施するときにも個別で行うことが多い。	同じ困りごとや悩みを抱えている方や保護者同士で繋がりのある方を複数名招き、座談会といった形で交流を図れるように取り組む。
3	認定こども園などの交流や、障がいのない子どもと活動する機会が少ない	公園での活動時に地域の子ども達と一緒に遊んだりといったことはあるが、地域イベント等の交流の場に参加することは少ない。	社会福祉協議会が案内を出しているイベントなど、地域交流を目的としている場に関する情報収集を行う。また、普段の活動時にも、公共の施設や交通機関を利用し、地域の人々と交流できる機会を増やしていく。